

中村深雪 伊吉書院類家店

八戸ブックセンター、オープン5周年おめでとうございます。

この5年間、たくさんの企画に関わらせていただきありがとうございました。その中で感じたことを素直に書かせていただきます。

おめでたい席にいきなり自分の話で恐縮ですが、ここ数年、心の落ち込みがとても激しい時期がありました。同じ趣味の人とSNSで話す機会は増え、それに心を支えられている部分が大きい一方で、リアルの世界では人とあまり話したくない思うようになっていました。そんな時に出来た八戸ブックセンターとの出会いに、わたしのネガティブな考えは打ち砕かれました。

ブックセンターが出来ると聞いた当初は正直とても懐疑的でした。既存書店と競合しない品揃えとはいえ、八戸在住のお客さんが本に遣う金額が急に増えるとは思えないし、本当に共存できるのかな? と。ところが5年経った今、見事に共存しています。『本のまち八戸』に八戸ブックセンターは欠かせない存在になりました。これまでトークイベントや企画展、読書会、ブックフェス、書店員向けの勉強会など、本の周りに人が集まる企画をたくさん提供していただきました。

ブックセンターでは自分の勤務店に入荷しない多様なジャンルの本に触れられますが、本そのものだけではなく、本を介しての人との繋がりもたくさん生まれ、それが心を豊かにしてくれました。誰に対してもそのきっかけを作ってくれる場所なのだと実感し、とても感謝しています。

ブックセンターに携わるために集まれたスタッフの皆様はもちろん、長い年月それぞれのお店で書店員をしながらも直接の交流を持つことはなかった木村書店さん・カネイリさん・成田本店さんの方々。そして私が書店のコミック担当としてずっと目標にしてきた、盛岡の児童書・コミックの専門店『さわや書店MOMO店』を立ち上げられた、故・伊藤清彦さん(書店業界では伝説の書店員さんだった方です)と直接お話しする機会を作って頂いたこともありました。

当店にお越しくださるお客様から「飾ってあるサイン色紙の量がすごいね」とお声がけいただくことが多々あります。わたしが書店員になってすぐの頃、天井や階段の壁までサイン色紙がびっしりと飾られたMOMO店を訪れ感動し「地方のお店でも応援の熱意が伝わればこういう売場が作れるんだ！わたしもお客さんに喜んで欲しい!」と思い、少しずつ今の売場を作ってきました。MOMO店はもうなくなってしまいましたが、理想のあのお店に少しは近付けたのかなと思いついて悩んでいた頃に伊藤さんが来店してくださり「このお店が近くにあったら通いたい」と仰ってくださったことにもすごく救われました。ブックセンターが無かったら、そんな機会が訪れることはまず無かっただろうなと思います。

今では、自分の世界に仲間が増えた! という思いでいっぱいです。これからも一緒に、本を通してたくさんの仲間を増やしていきましょうね。

中村深雪 miyuki nakamura

伊吉書院類家店

本のまち八戸ブックフェス(2018~)

「本で旅をしよう」(2020)など

伊吉書院類家店コミック担当。雑誌掲載の段階でおもしろいマンガ作品を見つけ出し、単行本が発売になった時にいち早く売り場で推して情報発信をしている。SNS投稿を見た作家さんからサイン色紙が届くことも多く、ファンの来店も多い。

